

🐻 ～ P A D D I N G T O N ～ 🐻

パディントン

P A D D I N G T O N

映画で考える 「よそ者を受け入れる社会」

対象：小学生以上

名前

年 組

1 「よそ者」を、どう迎える？

首に「このクマの面倒を見てください」という札をさげ、南米ペルーから遠いロンドンにやってきた一匹きのクマ。駅で出会ったブラウン一家は、はじめはとまどいながらも、**彼を家に迎え入れます。**

🐻 **ちがいは、いっしょに生きる力になる。**

🔑 首の札とスーツケース

作者のマイケル・ボンドは、第二次世界大戦中にロンドンに避難してきた子どもたちの姿からも、パディントンを おも 思いついたと語っています。子どもたちは、なまえ 名前と住所を書いた札を首からさげ、小さなスーツケースを持っていました。

※この特集の最終回です。これまでの8本もふり返ってみよう。

2 「居場所」をつくる4つの視点^{いばしょ}_{してん}

■ ① 事情を知る

なぜ、その人はここに来たのか知ろう。

■ ② 不安を認める

迎える側の不安も、話し合えば小さくなる。

■ ③ 良いところを見る

パディントンは、いつも人の良いところを見つけようとする。

■ ④ おたがいに変わる

受け入れると、迎える側も変わっていく。

3 映画『パディントン』とは

あらすじ

ペルーのジャングルで暮らしていた子グマは、地震で家を失い、ひとりでロンドンへやってきます。パディントン駅で出会ったブラウン一家は、駅の名前から彼を「パディントン」と名づけ、家に泊めることにします。なれない都会の暮らしで、パディントンは次々と騒ぎを起こしますが……。

グルーバーさん

骨董品店のグルーバーさんも、かつて苦労してロンドンにやってきた移民でした。パディントンの気持ちがよくわかる人です。

見るときの心がまえ

ブラウン一家が、パディントンを迎えることでどう変わっていくかに注目しながら見よう。

4 いぼしょ 居場所を考えるワーク

 えいが 映画を見て（またはあらすじから）、考えて書こう

① お父さんがはじめ反対したのは、なぜだ^{おも}と思う？

② パディントンが「^{いぼしょ}居場所」を見つけられたのは、なぜ？

③ 新しい人がクラスや地域に来たとき、自分にできることは？

④ 特集8本で、いちばん考えが変わった^{さくひん}作品はどれ？ なぜ？

5 ふりかえり

よそから来た人を受け入れると、_____も変わっていくと分かりました。これから、新しい人と出会ったときは、_____をしたいと思います。

 「ちがいは、いっしょに生きる力になる。」

先生・保護者へ：『パディントン』は日本で映画Gです。追いかける場面など、小さな子どもがこわがる可能性のある場面があります。本資料は小学生以上を想定しています。移民・難民の話題にふれる際は、外国にルーツのある児童・生徒がいる可能性に配慮し、特定の子どもに注目が集まらないようにしてください。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。